

# 飾大だより

## 初代会長五十年祭祭文 平成十年二月一日執行

此の霊舎に鎮め奉る故天理教飾大分教会初代会長竹川萬次大人の霊の御前に飾磨分教会三代会長本庄清則慎んで申し上げます。

大人は明治十六年一月姫路市今宿に生れ、学業を卒え、親達と農作業に従事されていきました。十六才の時に眼病を患い、医者にもかかり色々の信心もしたが一向に効果がなかった。荒川村苦編から本庄寧彦が匂いがけし飾東からも布教師がおたすけに運んで、不思議な御守護を頂き回復されました。その後、親神様への御恩報じの一念から田畑を弟にゆずって道一条を通る心定めをして飾磨分教会に住込まれました。教会に三年余り勤めて、今宿や青山、峠を越え石倉や追分の村々にも匂いがけに歩かれました。

大正初年から始まった飾磨分教会の神殿ふしんには身も心もつくし勤められました。大正四年頃から白浜町を中心に布教されていましたが、大正五年秋、飾磨の会長の指示によつて大阪へ布教に出られました。その年大見としゑをめぐり、共に苦勞されて住居も何回も変えられました。

大正十二年末、大阪市港区市岡で飾大宣教所設置のお許しを頂かれました。昭和三年の春から信仰し始めた原田延

夫を仕込んで東京へ布教に行けと大人が指示したのは昭和六年七月でした。竹川茂之が六年余り仕込を受け芦屋へ布教に出たのは昭和十一年六月でした。

昭和二十年三月十三日飾磨分教会の月次祭に大人は参拝されていましたが、その日、大空襲があつて飾大分教会は全焼しました。四散した信者を探し修理丹精し、昭和二十二年五月市場通二丁目に焼け残りの建物を買収し移転し、尚もたすけ一条に奔走されました。翌二十三年二月三日にわか的身上にて姫路市今宿にて出直しされました。惜しくも六十七才でした。昭和二十四年二月、ここ西区鞆大神宮の焼跡に木造の神殿ふしんが始まり、同年二月東京にて飾本分教会が許され、翌二十五年四月飾磨分教会が設置されました。

昭和三十三年九月、としゑ様は俊治様にゆずられ三十五年一月、この神殿ふしんにかゝりました。昭和四十二年三月に飾扇分教会、四十三んん十月に東生駒分教会と久柴分教会が設立されましたが、みな大人が長い年月仕込まれた用木でした。

今や飾大の道は昨年一月に台湾の豊原に教会を設立する教勢ですが、これも大人の御遺徳の現れと思ひます。今日大人の五十年祭を勤めるにあたり、大人の面影を偲びつゝ功績を讃えて伏し拝む状をお受け取り下さいまして飾大の道の榮と親族の上にも禍事なくお見守り下さるよう慎んで申し上げます。

大阪市西区鞆本町一丁目十八番十二号  
天理教飾大分教会出版部  
TEL (06) 441-1019  
FAX (06) 446-1193

## 年祭当日タイムスケジュール

AM 6:30 朝づとめ

徹饌 祖霊様開扉

朝食

7:30 献饌 ※調饌は1 / 31 PM ※結界はのける ☆久楽

親神様 19 教祖 15 御霊様 9, 9

※駐車場・玄関・湯茶・受付 準備

9:00 おつとめ着 着用

9:30 上級到着

10:00 おつとめ

☆飾芦

※年祭準備 祖霊殿前 テーブル・白布

竹川東一郎

〃 終了後 ※鳴物移動 男鳴物・・・教祖殿

女鳴物・・・神饌場

※参拝場 座布団 (会場係)

※必要以外は服装はそのまま

PM 0:30 初代会長五十年祭

☆飾扇

齋主 飾磨前会長

扨者 久楽・武田 賛者 北脇・奈良原 指図方 飾本

楽人 武田勇・清水正臣・津村佳洋・奈良原道夫

奈良原俊彦

三殿礼拝

齋主・齋員着座

齋主祭文奏上 拝礼

齋員列拝

拝礼 飾大会長・上級・奥様・御家族・親族

飾大部内教会長、役員代表・婦人会・青年会

参拝者代表・・・一同拝礼

三殿礼拝

齋主・齋員退手退場

御礼挨拶

更衣

直会 ※直会会場設営〈神殿〉

※模擬店開店 〈食堂〉

## 五十年祭役割表

総務	竹川茂一・竹川東一郎
会計	竹川茂一・高橋宏明・山本實・清水基弘
受付	高橋宏明・竹川東一郎・田井道則 松儀敏夫・竹川日出男・竹川宗彦 和久孝太郎
おつとめ進行	竹川茂一・高橋宏明・山本實・清水基弘 竹川東一郎
年祭司会進行	山本實
献饌・調饌	清水基弘・飾大青年
記録	山本實・奈良原克保（写真）・斉藤秀一
設営	清水基弘・飾大青年
駐車場	清水正臣・斉藤秀一・北脇教男 北脇靖教・津村佳洋・小林皓英・尋木誠
会場	武田留男・北脇正雄・武田勇・太田温清 山本大喜・大野富夫・首藤勇馬 尋木俊成・竹川眞道・井伊義生 河村光庸・東哲廣・大橋利男
玄関	竹川耕太郎・北脇康弘・松村繁夫 奈良原道夫・尋木俊明
食事湯茶接待	北脇栄子・武田恵以子・高島秀子
庶務	竹川東一郎・清水正臣

# 初代会長50年祭おつとめ役割

	おてふり男	おてふり女	地方	笛	ちゃんぽん	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	三味線	胡弓
	座りづとめ	奥様	清水基弘	武田留夫	田井道則	清水正臣	竹川日出男	北脇正雄	武田勇	清水里子	竹川まゆみ
・二下り目	よろづよ・一	北脇栄子	奈良原克保	北脇靖教	清水基弘	肥田さとみ	松村繁夫	大野房子	奈良原道夫	松儀喜美子	奈良原洋子
三・四下り目	高島秀子	津村嘉子	竹川東一郎	津村佳洋	北脇康弘	増崎静代	松村喜一	奈良原俊彦	奈良原道夫	津村房江	小林隆子
五・六下り目	高橋浩	高橋ルリ子	清水基弘	奈良原俊彦	五明むめ	岩竹一男	羅	高橋恵美	高橋悦子	藤井杏理	池島一恵
七・八・九	三田隆造	山本和子	山本實	大橋利男	青山都	尋木俊明	大橋由紀	夏山美和	尋木誠	速水節子	東友理
十・十一・十二	竹川耕太郎	尋木恒子	竹川茂一	尋木俊明	佐脇ゆくゑ	武友博子	三田隆造	尋木誠	松村繁夫	佐脇巳喜代	宮垣祝子

**年祭役割**

齋主：飾磨分教会前会長

賛者：北脇正雄

楽人：笙 | 奈良原俊彦

扨者：久楽分教会長

奈良原克保

筆築 | 武田勇・奈良原道夫

武田留夫

龍笛 | 清水正臣・津村佳洋

## 初代会長五十年祭あれこれ

平成十年二月一日(日)、皆様方の御協力を頂き、盛大かつ楽しくつとめさせて頂きました。ここに、心から、厚く御礼申し上げます、当日の様子を、簡単にご報告いたします。(尚、順序不同)

### 一、参拝者数

約二〇〇名

### 一、おつとめ奉仕者

九十一名

### 座りづとめ

会長様ご夫妻

部内教会長夫妻・役員

### よろづよ八首く四下り目

直轄用木・直轄布教所

### 五・六下り目

飾本・東生駒・久楽

### 七・八・九下り目

飾扇

### 十・十一・十二下り目

飾芦

### 一、駐車場

駐車した車、約三十台

最近は、駐車場の確保に、頭を痛めます。近所の有料駐車場が満車の為、次のような方法をとりました。

午前五時三十分、飾大の車を路上へ。飾大ガレージ十二台分、来客用として確保。キーはおあずかり。はみ出した車は、路上駐車。「五十年祭の為、しばらくの間、駐車させて頂きません。よろしくお願ひ致します。天理教飾大分教会」B・5のステッカーをフロントガラスに掲示、駐禁なし。無事故。

### 一、玄関

大祭に準じ、提灯・幕・旗そして各部内教会・布教所の提灯も出し、夜は点灯。

仮設下駄箱・すのこ板設置。ご希望者にはエフを渡す。係員は交代で、路上駐車のを厳重注意。

### 一、受付

途中で用意した偲び草セットの袋が足りなくなったりしましたが、七十周年のような混乱は少なくなりました。

### 一、おつとめと五十年祭準備

九十一名が交代でつとめました。欠員もありましたが、各下りの責任者同士がてきばきと補充。陽気に、勇んでなおかつスムーズに、予定より三十分も早く終了。神床の八足はそのまま、男鳴物は教祖の前へ移動、楽人の席とする。女鳴物は収納。初代祖霊者の前に写真。神床地方の場所に大生花、左に小さな花。白台に御供物。円座四枚。参拝場にびっしりと座布団を敷きつめる。

### 一、五十年祭

約五十名の竹川家親族が先ず着席。「ひのきしんの人達も、年祭の間は全員参拝場に着席して下さいとの、会長様のご意向です。」司会者の全館放送にしたがい、神殿以外の全ての場所に人影なく、今、国内は言うに及ばず、世界各国に教勢伸展に馳せめぐられる飾大分教会三代会長、その元一日の種を下ろされた初代会長を偲ぶ道の子達で三十二畳の参拝場は立錐の余地なく、その人数およそ一五〇名。

奏楽の中、齋主・飾磨前会長様、齋員入場、次々と読

み上げられる参拝順位に従い、親族は家族そろって続いて各代表が参拝（玉串なし）。最後に、参拝者代表と共に一同拝礼。会長様、約十分の熱誠溢れる御挨拶で午後一時三十分、五十年祭の幕を閉じました。

#### 一、直会と模擬店

会場（テーブル二台分十七セット）。客間、三十四席。何回も、テーブル、座布団等を出して、リハーサル。模擬店も前夜に、たこ焼き、焼きそばの試食会。

たこ焼き、焼きそば、おでん、うどん、ギョウザ、フルーツ、抹茶、ぜんざい以上八品、直轄、各部門が受け持ち、各一七〇人分用意。ほぼ完売（全品無料、ビール・酒も）しましたが、翌日、後片付けひのきしんの人達の昼食は焼きそば、たこ焼き、おでんでした。

#### 一、まとめ

親族も一緒にご招待すると決定した時、相当の混乱が予想されました。「全員が係員になったつもりで、心くばり、目くばり、身の動きを」を、合言葉に、ねりあいと、リハーサルをくり返しました。その成果が発揮できたようです。

とにかく、楽しかった。模擬店の品だけでお腹一杯で弁当が残った。それにしても、初代は偉い人や。こんなに大勢の人を寄せるなんて。大方の感想でした。ありがとうございます。

## 【連絡事項】

### 《教務》

今年が教祖御誕生二〇〇年の年です。それにともないご本部では、四月十七日から二十六日までの十日間毎日かぐらぶとめがつとめられます。それにあわせて、飾大分教会では、毎月の月次祭を、今年の四月に限り二十四日から十六日に変更させて頂くことになりましたので、ご連絡させていただきます。

四月十六日（木）

午前十時 祭典執行

また、飾大分教会では、教祖御誕生祭バス団参をさせていただきます。また、飾大につながります皆様方には是非ご参加いただき、一緒に教祖の御誕生日をお祝いさせていただきます。

日時 四月二十四日（金）

詳細につきましては後日ご連絡させていただきます。

### 【編集後記】

今回は、五十年祭特集としました。記録として保存して頂ければ幸いです。

平成八年十二月二十四日五十号まで「好きやねんこの一言」というタイトルの頁がありました。今は、タイトルなしで書いて頂いています。次回から「私（我が家）の入信の動機」のタイトルで原稿募集します。新しい内容になると思いますので、一度から数度書いた人も、始めから一巡しますので、よろしくお願い致します。